

令和4年3月20日

一般財団法人新潟県建設技術センター理事長 様

特定非営利活動法人 七福の恵
理事長 石川 久作

一般財団法人新潟県建設技術センター
令和3年度 研究助成事業

既存林道を活用したクロスカントリースキー による交流人口拡大に関する事業 報告書

●はじめに

当該地区にある日帰り温泉施設「七福荘」は、冬期間降雪により客足が落ちる状況にあり、冬期間除雪されない既存の林道を活用した誘客手段として同地区において、下越地区を拠点とするクロスカントリースキー愛好団体や新潟大学と連携して、競技者に冬期間利用されない林道を練習場として提供するとともに、地区の伝統行事等の体験プランを組み合わせ七福荘の冬期間における継続的な交流人口の拡大次の事業を実施して、交流人口・関係人口拡大のための取り組みを計画した。

新潟県内において、クロスカントリースキーは上中越では、オリンピック選手を輩出するほど盛んにおこなわれているが、下越地区では降雪の状況から普及が進んでいない。将来的にこうしたニーズにも応えられるような状況を目指して活動を実施した。

●背景や必要性

阿賀町七名地区は、周囲を急峻な溪谷、山々に囲まれ冬季の積雪は2mを超える。地区の人口は148人、74世帯で高齢化率が62%を超える状況にある（平成31年4月現在）。地区の中心部にある日帰り温泉施設「七福荘」は、住民の憩いの場であり、また地域の観光交流の拠点として営業している。

しかしながら、冬期間の営業については、雪の影響による集客率減少は否めない。安定的な営業に繋げ、冬場の地域活性化のためにも、雪を活用した集客の仕組みが必要である。

●申請事業の内容とその特徴

七名地区には多くの林道があり、降雪期は除雪されず全く利用されていない。

一方、新潟県内において、クロスカントリースキーは上中越ではオリンピック選手を輩出するほど盛んにおこなわれているが、下越地区では降雪の状況から普及が進んでいない。冬期間にある程度の積雪が見込まれる同地区において、下越地区を拠点とするクロスカントリースキー愛好団体や新潟大学と連携して、利用していない冬場の林道等を競技者や愛好者に練習場として提供できる環境を整えたい。

またクロスカントリースキーは、陸上長距離競技者の冬場のトレーニングとしても活用されていることから、冬場に訪れた利用者の夏場のトレイルランニングやマウンテンバイク等の合宿による再訪も期待される。

トレーニング環境の提供ばかりでなく、伝統行事等を組み合わせた体験プラン等も提供し、七福荘を拠点とした地区全体の継続的な交流人口の拡大、関係人口の確保に繋げる。

●調査活動実績

4月15日	関係者連絡調整会議	NPO、活性化委員会、新大、町	8名
4月27日	体験プラン構築会議	NPO、活性化委員会、町	4名
5月10日	コース下見・検討会議	活性化委員会、新大、町	6名
5月28日	建設技術センター経過報告	NPO、町	2名
6月14日	夏季プラン見直し協議	NPO、町、愛好会	3名
6月28日	コースカッター製作協議	NPO、新大、町、愛好会	5名
9月3日	事業変更内容協議	NPO、活性化委員会、町	6名
12月4日	林道等コース詳細調査	NPO、新大、町	6名
12月22日	体験プラン検討会議	NPO、活性化委員会、町、愛好会	4名
1月10日	コース作成検証	NPO、活性化委員会、新大、町、愛好会	5名
2月13日	コース試走検証	NPO、活性化委員会、新大、町、愛好会	10名
2月20日	コース試走検証	NPO 愛好会	2名
2月25日	今後活動の検討会議	NPO、活性化委員会、町	6名

●事業実績の概要

当初計画では、前述の「申請事業の内容とその特徴」を実施すべく準備を進めてきましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、学生等の活動が制限され、夏場に予定していた事業計画についての実施は不可能となりました。

そのような中ではありますが、感染が落ち着いた時期に、新潟大学クロスカントリースキー部の皆さんに、コースの下見や周辺施設の活用について実地調査をしていただいたところです。

同時に、冬場の事業実施に向けたクロスカントリースキーコース作成のための「コースカッター」の作製に向け、製作検討会を実施。結果、当初コースカッターのみの製作する予定でしたが、カッターの背面を活用した「雪面均平機」も兼ねて製作することといたしました。

機材も完成し、降雪を待つばかりの状況となりましたが、再び新型コロナウイルスが拡大し、新潟県では「まん延防止法重点措置」により、冬場の事業展開についても実施不可能な状況となってしまいました。

当法人では、少人数でのコースの検証やクロスカントリースキーの試走、ドローンを活用した記録など、工夫と感染対策を講じながら事業実施のための調査検証作業を進め、新年度には、今回の助成事業で整備したものを活用して、当初計画した事業展開ができるようにしたいと思っています。

また、今回の事業を採択していただいたおかげで、県内のスノーモービル愛好者との新たな繋がりもでき、コース周辺の観光わらび園の冬季間の有効活用も視野に入れ、事業目的の冬季間における継続的な交流人口拡大に向けた取り組みを進めてまいります。

事業成果報告書

今後のクロスカントリースキーによる交流人口拡大に関する事業について

実施主体	特定非営利法人 七福の恵
協力機関	七福の里活性化委員会 新潟大学村山研究室(スキー部顧問) 地元スノーモービル愛好会

1. 4月から11月の間の事業展開について

当地区にある林道は起伏に富み、競技者にとっては、交通量も少ないことから練習場所として非常に適した環境にある。事業で計画したトレイルランニングやマウンテンバイク等による夏場のトレーニングを実施する。

ふれあいの森バンガローは、自炊用具も整っており、1棟2万円程度(7~8人利用)であることから合宿経費の軽減につながり、非常に使いやすい施設との評価をいただいた。また食材についても七福荘や阿賀町内から調達することとした。

ふれあいの森バンガローは、行楽の時期を除き、比較的に予約しやすい環境にあり、また人家から離れた環境にあるので、合宿時の夜間には「星空観察」等の提案があったのでプログラムに組み込む。

地区の拠点施設である「七福荘」で、「山菜採取会」や「そば打ち体験」を実施する。採取した山菜を天ぷらにし、自分で打った蕎麦を「天ざる蕎麦」にして試食するプランを中心に、七福の里活性化委員会のご協力のもと、地区で開催される伝統行事への参加等、地域の皆さんと学生との交流促進を図り関係人口増加へ繋げる。

トレーニングコースについても、状況確認・検討の結果、付近の林道のほか県道柴倉津川線も活用できることから、目的に応じ様々なコースを選択することとする。

2. 12月から3月までの事業展開について

降雪期については、本事業を活用して設定した、クロスカントリースキーコースを活用してトレーニングを実施する。

地元スノーモービル愛好会では、自分たちは付近にある「観光わらび園」を中心に新たな冬場の遊びを模索しているので、コース整備等の協力はしていただけるとの了解を得た。

クロスカントリースキー合宿の実施と、スノーモービルの試乗体験等、多様なイベントを組み合わせ、閑散期の地域の賑わいに繋げたい。

また、雪を活用した「スノーシュー」や「テントサウナ」、「雪灯籠」等のイベント案も検討会議で意見として出されたので、当法人が主体となり、実施に向けた準備を進める。

3. 今後の全体展望

今回の事業を通じて、当法人では考えつかないようなご提案やご意見をいただいた。これまで冬場活用していなかった場所を有効活用し、交流人口や関係人口増加のための様々な仕組みや関係を構築できたことは、当法人にとって非常に有為な事業であった。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、本年度予定していた事業について実施できなかったことは残念だったが、新潟大学の学生の皆さんや地元スノーモービル愛好会の皆さんとの協議・検討会議や現地視察は非常に有意義なものとなり、実際に施設を利用していただいたの的確な感想も今後の施設充実のためにも反映させていきたい。

今後の事業展開については、本事業を通じて構築された仕組みを活かしつつ、「冬期間は週末のみの営業」となっている七福荘を、地域活性化のためにも通年営業できるように、計画した事業を実施・検証しつつ、引き続き当法人が中心となり事業展開を図っていく。

活動状況写真



合宿用バンガロー視察



クロスカントリスキーコース視察①





用具倉庫視察①



用具倉庫視察②



クロスカントリスキーコース設定調査①



クロスカントリスキーコース設定調査②



クロスカントリスキーコース設定調査③



クロスカントリスキーコース設定調査④



雪面均平器具



コースカッター器具



コースカッター試験状況①



コースカッター試験状況②





現地ミーティング状況



コース試走状況①



コース試走状況②



コース設定状況



コース試走状況③



コース試走状況④

既存林道を活用したクロスカントリースキーによる交流人口拡大に関する事業実施図

クロスカントリーコース

バンガロー

温泉

S/G

